

概要

手帳に関する歴史年表です。

説明

時期	内容
1796	レッツ社創立。
1812	レッツ社、世界初の商用ダイアリーを発売。
1883	リド社、ドイツ・ビーレフェルトに小さな製本所として設立。
1921	Norman & Hill 社、ロンドンに設立。後の fiLOFAX 社。
	Norman & Hill 社、後にシステム手帳の世界規格となるパーソナルサイズ（日本での呼び名はバイブルサイズ）の手帳を考案し発売。
1933	卓上ダイアリー「rido-merker」ヒット。リド社の手帳メーカーとして不動の地位に。
1938	考古学者ヘンリー・ジョーンズ、聖杯の行方に関する研究メモをモレスキンに記録し、息子の考古学者インディアナ・ジョーンズに送る。
1940.12	Norman & Hill 社、ロンドン大空襲で社屋全焼。当時の臨時秘書グレース・スカル、自分のファイロファックスに収められていた全顧客の名簿により事業を再開。
1944	大野化学機械(株)の社員手帳で、時間メモリ入り週間スケジュールページが取り入れられる。後の「能率手帳」の元となる。
1949	日本能率協会会員 3000 名に、最初の能率手帳が無料配布される。
1951	能率手帳の法人向け販売が開始され、日本の主要企業に採用される。
1958	世界最初の蛇腹式手帳「rido-mini-planner」発売される。
1959	能率手帳の個人向け販売が開始される。
1963	能率協会、能率手帳シリーズ製品の一つとして「能率手帳バインダー」を販売開始。8 穴タイプのバインダー手帳で、数種類のリフィルバリエーションを備えていた。この製品が、日本初のシステム手帳と考えられる。

1968	システム・ダイアリー発売。60 種類以上のリフィルとファイリングシステムを備えた本格的なシステム手帳として話題になる。
1969	梅棹忠夫著・「知的生産の技術」出版。
	情報整理学がブーム化。
	「知的生産の技術」などの書籍と情報整理学ブーム、およびシステム・ダイアリーが起爆剤となり、第一次システム手帳ブームが起こる。システム・ダイアリーがビジネスパーソンに普及する。
1976	イギリス陸軍エベレスト登山隊が、データブックとしてファイロファックスを装備に採用。
	Pocketfax 社、ファイロファックスの通信販売を開始。ファイロファックス、飛躍的に成長を遂げる。
1980	Norman & Hill 社、Pocketfax 社に買収され社名を fiLOFAX 社に変える。
1984	ファイロファックス日本上陸。
	ファイロファックスの流行を受けて、第二次システム手帳ブームが起こる。6 穴バイブル手帳を中心にバインダー型システム手帳が多数販売される。また、システム手帳関連書籍や、システム手帳専門雑誌、リフィルタイプの付録をつけた雑誌などが相次いで刊行される。
1987	日本能率協会マネジメントセンター、「Bindex」バイブルサイズを発売。後に様々なサイズのラインナップを整備。
1989	日本能率協会マネジメントセンター、「Bindex」シリーズ製品の一つとして 8 穴・能率手帳サイズの「Bindex-N」を販売開始。本製品は、1963 年販売開始した能率手帳バインダーのフルモデルチェンジ製品で、能率手帳 40 周年を記念してラインナップに加えられた。
1990	映画「ファイロファックス／トラブル手帳で大逆転（原題：Taking Care of Business）」が全米で公開される。
1992	fiLOFAX 社、米国・Lefax 社を買収。

1992.09.30	日本最初のホームページが茨城県つくば市・文部省高エネルギー加速器研究機構計算科学センターの森田洋平博士によって発信される。この記録は、当時の森田博士の手帳から確認された。
1998	モレスキン、イタリア・ミラノで Modo & Modo 社により復活
1998	fiLOFAX 社、アメリカ・Day Runner 社の傘下となる。
2001	fiLOFAX 社、イギリス・Letts 社の傘下となる。
2004	夢実現系手帳の販売相次ぐ。
	「夢手帳☆熊谷式・スターターパック」販売開始。
	「Date your dream システム手帳」販売開始。
	夢実現系手帳の流行に伴い、第三次システム手帳ブームが起こる。

情報源

ファイロファックス fiLOFAX 年表

http://info.amitynet.jp/fiLOFAX_info_story_2.html

ブランド物語 Vol.1 リド

<http://www.ito-ya.co.jp/communication/story1.html>